(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第6870864号
(P6870864)
(45)発行日　令和3年5月12日(2021.5.12)　(24)登録日　令和3年4月19日(2021.4.19)

(51)Int.Cl.　F I
A47G 19/14 (2006.01)　A47G 19/14 L
A47G 19/14 Z

請求項の数 1　(全 11 頁)

(21)出願番号　特願2019-136654(P2019-136654)
(22)出願日　令和1年7月25日(2019.7.25)
(65)公開番号　特開2021-19691(P2021-19691A)
(43)公開日　令和3年2月18日(2021.2.18)
審査請求日　令和1年7月25日(2019.7.25)
審判番号　不服2020-9504(P2020-9504/J1)
審判請求日　令和2年7月7日(2020.7.7)

早期審理対象出願

(73)特許権者　517136771
株式会社瓦粋
静岡県袋井市泉町１丁目４番地４号
(74)代理人　100136674
弁理士　居藤　洋之
(72)発明者　塚本　勇人
静岡県袋井市泉町一丁目四番地四号　株式会社瓦粋内

合議体
審判長　窪田　治彦
審判官　上田　真誠
審判官　佐々木　芳枝

最終頁に続く

(54)【発明の名称】急須

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
底部の周縁部に起立する側壁が形成されて同底部の対向する側に開口部が形成された有底筒状の急須本体と、
前記急須本体に連通する管状に形成されて前記急須本体内に収容している液体を導き出すための注ぎ部と、
前記急須本体上に載せられて前記開口部を覆う蓋体とを備えた急須であって、
前記急須本体は、
前記急須本体上に載せられた前記蓋体をスライド可能な状態で支持するように前記開口部における周縁部に平面状に形成された蓋体支持部と、
前記開口部における周縁部に連続的に起立する壁状に形成されて前記蓋体支持部上に載せられた前記蓋体の周縁部の一部が突き当たる止め壁部とを有し、
前記蓋体支持部は、
平面視で少なくとも１８０°を超えるＣ字状に形成されており、
前記止め壁部は、
前記蓋体支持部とは反対側で同蓋体支持部上に載せられた前記蓋体の周縁部の一部を上方から覆う覆い部を有して、平面視における両端部が前記蓋体支持部の周方向の両端部上に重なって形成されており、
前記蓋体支持部および前記蓋体は、
前記蓋体を前記蓋体支持部上で前記注ぎ部側に向かってスライドまたは同注ぎ部とは反

対側に向かってスライドさせることで摺動音が発生するように前記蓋体支持部および前記蓋体における摺動部分の各表層を多孔質に形成して各表面の手触りがザラザラとする梨地状の粗面で構成されており、

前記蓋体は、

前記Ｃ字状に形成された蓋体支持部上のみに載置されてこの蓋体支持部上をスライドするものであり、かつ上面中心部が周縁部に対して凸状に隆起して形成されているとともに、前記開口部に対向する裏面が凹状に窪んで形成されていることを特徴とする急須。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は、お茶を淹れる急須に関する。

【背景技術】

【０００２】

従来から、お茶を淹れる器具として急須がある。例えば、下記特許文献１には、有底筒状の急須本体の底部が注ぎ口に向かって下方に傾斜するとともにこの傾斜面の上方に茶こしを設けた急須が開示されている。これにより、この急須は、急須本体内に残ったお湯が茶葉に接触することを防止して同じ茶葉で２回目以降に煎じるお茶の色や香りの低下を抑制している。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００３】

【特許文献１】特開２０１３－２７５１７１号公報

【０００４】

しかしながら、上記特許文献１に記載された急須においては、淹れられたお茶の外観、香りおよび味でしか愉しむことができない。一方、お茶の一種である抹茶は、お茶を点てる際に茶道具を操作する音、例えば、茶筅の操作による茶器の間の摩擦音などによってお茶を音でも愉しむことが行なわれている。

【発明の概要】

【０００５】

本発明は上記問題に対処するためなされたもので、その目的は、茶葉を煎じてお茶を淹れる場合においても音まで愉しむことができる急須を提供することにある。

【０００６】

上記目的を達成するため、本発明の特徴は、底部の周縁部に起立する側壁が形成されて同底部の対向する側に開口部が形成された有底筒状の急須本体と、急須本体に連通する管状に形成されて急須本体内に収容している液体を導き出すための注ぎ部と、急須本体上に載せられて前記開口部を覆う蓋体とを備えた急須であって、急須本体は、急須本体上に載せられた蓋体をスライド可能な状態で支持するように開口部における周縁部に平面状に形成された蓋体支持部と、前記開口部における周縁部に連続的に起立する壁状に形成されて蓋体支持部上に載せられた蓋体の周縁部の一部が突き当たる止め壁部とを有し、蓋体支持部は、平面視で少なくとも１８０°を超えるＣ字状に形成されており、止め壁部は、蓋体支持部とは反対側で同蓋体支持部上に載せられた蓋体の周縁部の一部を上方から覆う覆い部を有して、平面視における両端部が蓋体支持部の周方向の両端部上に重なって形成されており、蓋体支持部および蓋体は、蓋体を蓋体支持部上で注ぎ部側に向かってスライドまたは同注ぎ部とは反対側に向かってスライドさせることで摺動音が発生するように蓋体支持部および蓋体における摺動部分の各表層を多孔質に形成して各表面の手触りがザラザラとする梨地状の粗面で構成されており、蓋体は、Ｃ字状に形成された蓋体支持部上のみに載置されてこの蓋体支持部上をスライドするものであり、かつ上面中心部が周縁部に対して凸状に隆起して形成されているとともに、開口部に対向する裏面が凹状に窪んで形成されていることにある。

【０００７】
このように構成した本発明の特徴によれば、急須は、急須本体における開口部の周縁部に蓋体をスライドさせることができる平面状の蓋体支持部と、蓋体支持部上に載せられた蓋体の周縁部の一部が突き当たる止め壁部とを有しているため、使用者は蓋体を蓋体支持部上を摺動させることで摺動音を発生させることができる。この場合、急須は、急須本体が有底筒状の壺状に形成されてギターの胴などの響板のように作用することで独特の摺動音を発生させることができる。これにより、急須は、急須の周辺に居る者に対してお茶を淹れる過程で抹茶のように音でも愉しませることができる。なお、急須には、急須本体に開口部の上方に取っ手が架設された土瓶、または紅茶を淹れるティーポットも含まれる。

【０００８】
また、急須は、蓋体支持部および蓋体における互いに摺動し合う部分の各表面の手触りがザラザラと粗く形成されているため、より大きく特徴的で趣のある音を発生させることができる。なお、蓋体支持部および蓋体における互いに摺動し合う部分の各表面の手触りがザラザラと粗く形成されているとは、手で撫でた、または爪を立てて引っ掻いた際に抵抗なく滑らかに滑る感触ではなく、微細な凹凸を感じることができる程度の粗さ（例えば、梨地）である。

【０００９】
また、急須は、蓋体支持部および蓋体における互いに摺動し合う部分の各表層が多孔質で構成されているため、より大きく特徴的で趣のある音を発生させることができる。

【００１０】
また、急須は、止め壁部が蓋体支持部上に載せられた蓋体の周縁部の一部を上方から覆う覆い部を有しているため、蓋体支持部上の蓋体が上方に外れることを抑制することができる。

【００１１】
また、急須は、蓋体が急須本体の開口部に対向する裏面が凹状に窪んで形成されて蓋体の肉厚が薄く形成されているため、急須本体内からの音が外部に漏れやすく蓋体を閉めきるまで急須が発する音を愉しむことができる。

【図面の簡単な説明】
【００２２】
【図１】本発明の一実施形態に係る急須の外観構成を斜め前方から見た概略を示す斜視図である。
【図２】図１に示す急須における蓋体を外した状態の外観構成を側方から見た斜視図である。
【図３】図１に示す急須本体の内部構成の概略を示す断面図である。
【図４】図１に示す蓋体の外観構成および内部構成の概略を示す一部断面側面図である。
【図５】図１に示す急須を手で把持してお茶を注ぐ様子を示した斜視図である。
【図６】図１に示す急須において、急須本体の開口部を蓋体で覆った状態を示す断面図である。
【図７】図６に示す急須に対して蓋体をスライドさせて急須本体を開口する様子を示す斜視図である。
【図８】図３に示す急須において、飲料原料および飲料溶媒を収容した急須本体の蓋体支持部の一部に蓋体を載せてスライドさせる状態を示した断面図である。
【図９】図８に示す急須において、蓋体を閉め切った状態を示す斜視図である。
【発明を実施するための形態】
【００２３】

以下、本発明に係る急須の一実施形態について図面を参照しながら説明する。図１は、本発明に係る急須１００の外観構成を斜め前方から見た概略を示す斜視図である。また、図２は、図１に示す急須１００における蓋体１３０を外した状態の外観構成を側方から見た斜視図である。また、図３は、図１に示す急須本体１０１の内部構成の概略を示す断面図である。また、図４は、図１に示す蓋体１３０の外観構成および内部構成の概略を示す一部断面側面図である。

【００２４】

なお、本明細書において参照する各図は、本発明の理解を容易にするために一部の構成要素を誇張して表わすなど模式的に表している。このため、各構成要素間の寸法や比率などは異なっていることがある。この急須１００は、煎茶の茶葉などの飲料原料ＷＫ１と、お湯や水などの液体からなる飲料溶媒ＷＫ２とを同時に収容して飲料原料ＷＫ１が含有する成分を抽出して煎茶などの抽出飲料を生成する器具である。

【００２５】

（急須１００の構成）

急須１００は、主として、急須本体１０１と蓋体１３０とで構成されている。急須本体１０１は、飲料原料ＷＫ１と飲料溶媒ＷＫ２とを同時に収容して飲料原料ＷＫ１が含有する成分を抽出して抽出飲料を生成する部品であり、有底筒状に形成されている。より具体的には、急須本体１０１は、平面視で円形の底部１０２の周縁部に側壁１０３が起立して形成されている。

【００２６】

底部１０２は、急須本体１０１内に投入された飲料原料ＷＫ１および飲料溶媒ＷＫ２をそれぞれ支持する部分であり、平板状に形成されている。この場合、底部１０２は、急須本体１０１の内部の表面およびこの表面の裏側で急須本体１０１の外部に露出した裏面がそれぞれ平坦な面で構成されている。なお、底部１０２は、平板状以外の形成、例えば、曲面状に形成されていてもよいし、裏面に凸状の突起を部分的に設けて裏面全体が床面に密着せず浮いた状態となるように構成することもできる。

【００２７】

側壁１０３は、底部１０２の上方を囲って主として飲料溶媒ＷＫ２をそれぞれ保持する部分であり、円筒状に形成されている。この場合、側壁１０３は、底部１０２側から側壁１０３の上端部側に向かって内側に傾斜した円錐状に形成されている。すなわち、側壁１０３は、側壁１０３の上端部によって平面視で円形に形成された開口部１０３ａが底部１０２よりも小径に形成されている。なお、側壁１０３は、底部１０２側から側壁１０３の開口部１０３ａ側に向かって垂直または開口部１０３ａ側に向かって外側に傾斜して形成することもできる。

【００２８】

この側壁１０３には、注ぎ部１０４、濾し部１０５、蓋体支持部１１０および止め壁部１２０がそれぞれ形成されている。注ぎ部１０４は、急須本体１０１内の飲料溶媒ＷＫ２を急須本体１０１の外部に導き出すための部分であり、急須本体１０１の内部に連通した状態で側壁１０３から斜め上方に向かって延びて管状に形成されている。濾し部１０５は、急須本体１０１内の飲料溶媒ＷＫ２を飲料原料ＷＫ１を濾しながら注ぎ部１０４に流通させるための板状の部分であり、側壁１０３の内側面から半球状に突出するとともにこの半球面に多数の貫通孔が形成されて構成されている。

【００２９】

蓋体支持部１１０は、蓋体１３０がスライド可能な状態で載置される部分であり、側壁１０３の上端部に形成されている。より具体的には、蓋体支持部１１０は、側壁１０３の上端部の周方向の一部が急須本体１０１の内側に屈曲して平坦で水平な平面状に形成されている。この場合、蓋体支持部１１０は、平面視において側壁１０３の上端部の周方向に少なくとも１８０°を超える範囲で連続的または断続的に形成される。本実施形態においては、蓋体支持部１１０は、急須本体１０１における注ぎ部１０４の形成位置とは反対側に平面視でＣ字状に形成されている。

【００３０】
止め壁部１２０は、蓋体支持部１１０上をスライドさせた蓋体１３０のストッパとして機能するとともに蓋体支持部１１０上に載置された蓋体１３０が蓋体支持部１１０上から外れることを防止するための部分であり、側壁１０３の上端部に形成されている。より具体的には、止め壁部１２０は、主として、壁部１２１と覆い部１２２とで構成されている。

【００３１】
壁部１２１は、蓋体支持部１１０上をスライドさせた蓋体１３０のストッパとして機能する部分であり、側壁１０３の上端部の周方向の一部が上方に張り出して形成されている。この場合、壁部１２１は、蓋体支持部１１０および同蓋体支持部１１０上に載置される蓋体１３０の周縁部よりも上方に突出する高さに形成される。

【００３２】
覆い部１２２は、蓋体支持部１１０上に載置された蓋体１３０が蓋体支持部１１０上から外れることを防止するための部分であり、急須本体１０１の内側に屈曲して平坦で水平な平面状に形成されている。この場合、覆い部１２２は、蓋体支持部１１０上に載置される蓋体１３０の周縁部を上方から覆うように壁部１２１の上端部が開口部１０３ａ側に向かって屈曲して形成されている。

【００３３】
この止め壁部１２０は、平面視において側壁１０３の上端部の周方向に少なくとも９０°以上かつ１８０°以下の角度範囲で連続的または断続的に形成されるとよい。本実施形態においては、止め壁部１２０は、急須本体１０１における注ぎ部１０４の形成位置側に平面視で扇の円弧状に形成されている。この場合、止め壁部１２０は、平面視において側壁１０３の上端部の周方向に略１８０°の角度範囲で連続的に形成されており、止め壁部１２０における周方向の両端部が蓋体支持部１１０の周方向の両端部上に重なって形成されている。

【００３４】
この急須本体１０１は、底部１０２、側壁１０３、注ぎ部１０４、濾し部１０５、蓋体支持部１１０および止め壁部１２０がそれぞれ一体的に形成されている。より具体的には、急須本体１０１は、粘土によって急須本体１０１の全体を成形した後、１１００℃前後の温度で焼くことで製造される。すなわち、急須本体１０１は、陶器で構成されている。本実施形態においては、急須本体１０１は、いぶし瓦と同じ製法によって製造されている。これにより、急須本体１０１は、蓋体支持部１１０を含めて急須本体１０１の全体が多孔質に形成されている。また、急須本体１０１は、薄く銀色を帯びた黒色に形成されている。

【００３５】
蓋体１３０は、急須本体１０１における蓋体支持部１１０上に載置されて蓋体支持部１１０との間で摺動音を発生させるとともに開口部１０３ａを塞ぐための部品であり、平面視で円板状に形成されている。この場合、蓋体１３０の平面視での外径は、本実施形態においては蓋体支持部１１０の外径よりも若干小さい外径に形成されているが、蓋体支持部１１０の外径以上に形成されていてもよいことは当然である。この蓋体１３０は、円形の輪郭の周縁部１３１から中心部に向かって連続的に隆起した把持部１３２が形成されている。

【００３６】
把持部１３２は、急須１００の使用者が蓋体１３０を把持する部分であり、側方視で富士山のよう山形の形状に形成されている。この把持部１３２の斜面には、指当て部１３３が形成されている。指当て部１３３は、図５に示すように、急須１００を持ち上げて飲料溶媒ＷＫ２を注ぐ際に蓋体支持部１１０上に載置された蓋体１３０を指で押さえ易くするための部分であり、凹状に凹んだ球面状に形成されている。本実施形態においては、指当て部１３３は、把持部１３２を介して互いに対向する位置、換言すれば、把持部１３２に対して互いに反対側に形成されている。

【００３７】
蓋体１３０の裏面側には、摺動部１３４および逃げ部１３５がそれぞれ形成されている。摺動部１３４は、蓋体支持部１１０上に載せられて同蓋体支持部１１０上をスライドする部分であり、蓋体１３０の裏面側の周縁部に平坦な平面状のリンク状に形成されている。
【００３８】
逃げ部１３５は、蓋体１３０の肉厚を薄くするための部分であり、蓋体１３０の裏面側における摺動部１３４の内側を凹状に窪ませて形成されている。この場合、逃げ部１３５は、蓋体１３０の把持部１３２および指当て部１３３の各形状に沿って凹状に窪んで形成されている。これにより、蓋体１３０は、把持部１３２および指当て部１３３が一定の厚さで形成されている。
【００３９】
この蓋体１３０は、周縁部１３１、把持部１３２、指当て部１３３、摺動部１３４および逃げ部１３５がそれぞれ一体的に形成されている。より具体的には、蓋体１３０は、粘土によって全体が成形された後、１１００℃前後の温度で焼くことで製造される。すなわち、蓋体１３０は、急須本体１０１と同様に、陶器で構成されている。本実施形態においては、蓋体１３０は、急須本体１０１と同様に、いぶし瓦と同じ製法によって製造されている。これにより、蓋体１３０は、摺動部１３４を含めて蓋体１３０の全体が多孔質に形成されている。また、蓋体１３０は、急須本体１０１と同様に、薄く銀色を帯びた黒色に形成されている。
【００４０】
（急須１００の作動）
次に、上記のように構成した急須１００の作動を説明する。急須１００の使用者は、急須１００、飲料原料ＷＫ１および飲料溶媒ＷＫ２をそれぞれ用意する。本実施形態においては、使用者は、飲料原料ＷＫ１として煎茶の茶葉を用意するとともに、飲料溶媒ＷＫ２としてお湯を用意する。すなわち、この急須１００の本作動説明は、飲料として煎茶を淹れる作業を通して説明する。
【００４１】
次に、使用者は、急須１００における急須本体１０１から蓋体１３０を取り外す。具体的には、作業者は、図６および図７にそれぞれ示すように、蓋体１３０の把持部１３２を指で摘まんで注ぎ部１０４とは反対側に蓋体支持部１１０上にスライドさせる（破線矢印参照）。これにより、急須１００は、蓋体支持部１１０と摺動部１３４とが摺動することに起因して摺動音が発生する。この場合、摺動音は、急須本体１０１の内部での反響音を含んでいる。また、摺動音は、急須本体１０１の開口部１０３ａの開口量が増加するに従って変化する。
【００４２】
これにより、使用者および飲料溶媒ＷＫ２を飲む者など急須１００の周囲に居る者は、急須１００が発する特徴的な摺動音によって独特の雰囲気を愉しむことができる。そして、使用者は、蓋体１３０が止め壁部１２０から外れるまで蓋体１３０をスライドさせた後、蓋体１３０を更にスライドさせる、または上方に持ち上げることで急須本体１０１の開口部１０３ａを完全に露出させることができる（図２および図３参照）。
【００４３】
次に、使用者は、急須本体１０１内に開口部１０３ａを介して飲料原料ＷＫ１を適量投入する。次に、使用者は、急須本体１０１内に開口部１０３ａを介して飲料溶媒ＷＫ２を適量注ぐ。そして、使用者は、急須本体１０１の開口部１０３ａを蓋体１３０によって塞ぐ。
【００４４】
具体的には、使用者は、図８および図９にそれぞれ示すように、蓋体１３０の摺動部１３４の一部を急須本体１０１の蓋体支持部１１０における注ぎ部１０４とは反対側の端部に載せた後、この蓋体１３０を注ぎ部１０４側に向かってスライドさせる（破線矢印参照

）。これにより、急須１００は、蓋体支持部１１０と摺動部１３４とが摺動することに起因して摺動音が発生する。この場合、摺動音は、急須本体１０１の内部での反響音を含んでいる。また、摺動音は、急須本体１０１の開口部１０３ａの開口量が減少するに従って変化する。

【００４５】

また、摺動音は、急須本体１０１内に収容した飲料溶媒ＷＫ２の量に応じて若干変化する。すなわち、急須１００は、急須本体１０１内に飲料溶媒ＷＫ２が存在する場合と存在しない場合、すなわち、蓋体１３０を開ける場合と閉める場合とで音の変化も愉しむことができる。これにより、使用者および飲料溶媒ＷＫ２を飲む者など急須１００の周囲に居る者は、急須１００が発する特徴的な摺動音によって独特の雰囲気を愉しむことができる。そして、使用者は、蓋体１３０の周縁部１３１が止め壁部１２０内に進入して突き当たることで急須本体１０１の開口部１０３ａを完全に覆うことができる。

【００４６】

次に、使用者は、急須本体１０１内において飲料原料ＷＫ１に含まれる成分が飲料溶媒ＷＫ２に溶出するまで待った後、急須本体１０１内の飲料溶媒ＷＫ２を飲料として湯呑みなどの飲用容器に移す。具体的には、使用者は、図５に示すように、急須１００を手で持って急須１００全体を傾けることで急須本体１０１内の飲料溶媒ＷＫ２を注ぎ部１０４を介して導き出す。

【００４７】

この場合、使用者は、急須本体１０１を手で持つとともに、蓋体１３０における指当て部１３３を親指で押さえることで蓋体１３０の位置ずれおよび落下を防止しながら飲料溶媒ＷＫ２を注ぐことができる。ここで、使用者は、蓋体１３０を蓋体支持部１１０で回転させることで蓋体１３０を押さえ易い向きに変更することができる。また、急須本体１０１は、側壁１０３が注ぎ部１０４以外の部分が単純な円筒面に形成されており側壁１０３から棒状または環状の取っ手を有していないため、左右どちらの手でも把持し易くなっている。また、使用者は、急須本体１０１における側壁１０３の上部を親指と中指で挟んで保持しつつ蓋体１３０の把持部１３２を人差し指で押さえることでも蓋体１３０の位置ずれおよび落下を防止しながら飲料溶媒ＷＫ２を注ぐこともできる。なお、急須本体１０１は、側壁１０３から棒状または環状の取っ手を有して構成されていてもよいことは当然である。

【００４８】

次に、使用者は、飲料溶媒ＷＫ２を注ぎ終えた場合には、前記と同様にして、急須本体１０１上で蓋体１３０をスライドさせることによって蓋体１３０を急須本体１０１上から取り除くことができる。この場合においても、使用者および飲料溶媒ＷＫ２を飲む者など急須１００の周囲に居る者は、急須１００が発する特徴的な摺動音によって独特の雰囲気を愉しむことができる。

【００４９】

次に、使用者は、開口部１０３ａが露出した急須本体１０１内に再度飲料溶媒ＷＫ２を注いで飲料を生成することができる。また、使用者は、急須本体１０１内の飲料原料ＷＫ１を取り出して再度飲料原料ＷＫ１を急須本体１０１内に投入するとともに再度飲料溶媒ＷＫ２を注いで飲料を生成することができる。また、使用者は、急須本体１０１内の飲料原料ＷＫ１を取り出した後、急須１００を洗浄して飲料の生成作業を終了することもできる。

【００５０】

上記作動説明からも理解できるように、上記実施形態によれば、急須１００は、急須本体１０１における開口部１０３ａの周縁部に蓋体１３０をスライドさせることができる平面状の蓋体支持部１１０と、蓋体支持部１１０上に載せられた蓋体１３０の周縁部１３１の一部が突き当たる止め壁部１２０とを有しているため、使用者は蓋体１３０を蓋体支持部１１０上を摺動させることで摺動音を発生させることができる。この場合、急須１００は、急須本体１０１が有底筒状の壺状に形成されてギターの胴などの響板のように作用す

ることで独特の摺動音を発生させることができる。これにより、急須１００は、急須１００の周辺に居る者に対してお茶を淹れる過程で抹茶のように音でも愉しませることができる。

【００５１】

さらに、本発明の実施にあたっては、上記実施形態に限定されるものではなく、本発明の目的を逸脱しない限りにおいて種々の変更が可能である。なお、下記各変形例において、上記各実施形態と同様の構成部分については同じ符号を付して、その説明を省略する。

【００５２】

例えば、上記実施形態においては、急須本体１０１における蓋体支持部１１０および蓋体１３０における摺動部１３４の各表層を多孔質に形成して手触りがザラザラとする梨地状の粗面で構成した。これにより、急須１００は、より大きく特徴的で趣のある音を発生させることができる。なお、蓋体支持部１１０および蓋体１３０における互いに摺動し合う部分の各表面の手触りがザラザラと粗く形成されているとは、手で撫でた、または爪を立てて引っ掻いた際に抵抗なく滑らかに滑る感触ではなく、微細な凹凸を感じることができる程度の粗さである。

【００５３】

しかし、蓋体支持部１１０および摺動部１３４は、それぞれ各表面に微細な凹凸を形成することで手触りがザラザラとする粗面に構成することもできる。例えば、急須１００は、サンドブラスト、サンドペーパによる磨き作業または金型による成形などによって蓋体支持部１１０および摺動部１３４の各表面に微細な凹凸を形成することができる。また、蓋体支持部１１０および摺動部１３４は、それぞれ各表面を滑らかな平滑面に形成することもできるが音の発生は小さくなる。

【００５４】

また、上記実施形態においては、蓋体支持部１１０は、側壁１０３の上端部を開口部１０３ａ側に屈曲させて形成した。これにより、蓋体支持部１１０は、蓋体１３０との接触面積を大きくすることができるとともに、蓋体１３０のスライド時における蓋体支持部１１０の振動を効果的に急須本体１０１内に伝達して音を発生させることができる。しかし、蓋体支持部１１０は、側壁１０３の上端部を屈曲させることなく上端面のみで構成することもできる。

【００５５】

また、上記実施形態においては、止め壁部１２０は、壁部１２１と覆い部１２２とで構成した。しかし、止め壁部１２０は、壁部１２１のみで構成することもできる。

【００５６】

また、上記実施形態においては、止め壁部１２０は、急須本体１０１の開口部１０３ａの周縁部における注ぎ部１０４側に形成した。しかし、止め壁部１２０は、急須本体１０１における開口部１０３ａの周縁部に形成されていればよく、蓋体支持部１１０上における注ぎ部１０４側以外の部分、例えば、注ぎ部１０４側とは反対側に形成することもできる。この場合、蓋体支持部１１０は、止め壁部１２０が形成された側とは反対側、すなわち、注ぎ部１０４側に形成することができる。

【００５７】

また、上記実施形態においては、蓋体支持部１１０は、急須本体１０１の開口部１０３ａの周縁部の一部にＣ字状に形成した。しかし、蓋体支持部１１０は、急須本体１０１の開口部１０３ａの周縁部の全周に亘ってリング状に形成することもできる。

【００５８】

また、上記実施形態においては、蓋体１３０は、指当て部１３３を備えて構成した。しかし、蓋体１３０は、指当て部１３３を省略して構成することもできる。この場合、蓋体１３０は、例えば、上面を平板状に形成するとともに、上面の一部に取っ手を備えて構成することができる。なお、蓋体１３０は、上記実施形態においては、小さな貫通孔からなる通気口を省略して構成したが、通気口を備えて構成してもよいことは当然である。

【００５９】

また、上記実施形態においては、蓋体１３０は、裏面側を凹状に窪ませた逃げ部１３５を備えて構成した。しかし、蓋体１３０は、逃げ部１３５を省略して構成することもできる。この場合、蓋体１３０は、裏面側を平板状に平坦に形成して構成することができる。

【００６０】

また、上記実施形態においては、急須１００は、いぶし瓦と同じ製法、すなわち、釉薬を使わず素焼きして燻化することで製造した。しかし、急須１００は、釉薬を用いて焼成するようにしてもよい。すなわち、急須１００は、陶器で構成することができる。また、急須１００は、磁器で構成することもできる。さらに、急須１００は、陶磁器以外で構成、例えば、樹脂材または木材で構成することもできる。

【００６１】

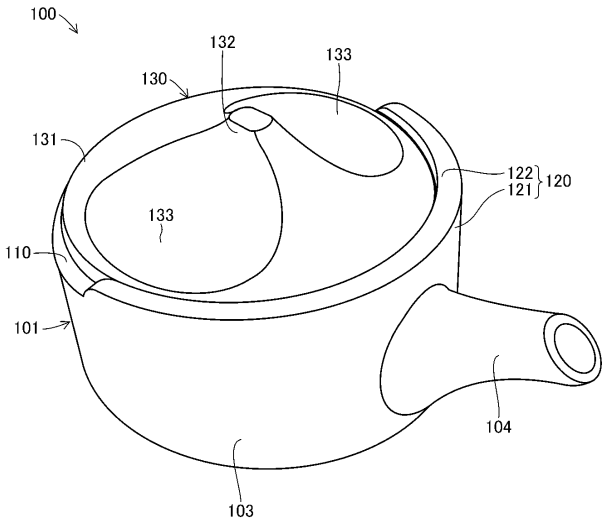
また、上記実施形態においては、急須１００は、飲料原料ＷＫ１を煎茶の茶葉とし、飲料溶媒ＷＫ２をお湯として煎茶を生成するようにした。しかし、急須１００が生成する飲料は、煎茶以外の飲料であっても良いことは当然である。したがって、急須１００は、ウーロン茶、プーアル茶、紅茶、ジャスミン茶またはコーヒなど種々の飲料を生成することができる。この場合、急須１００は、飲料原料ＷＫ１が飲料溶媒ＷＫ２に溶けるものまたは懸濁するもの、例えばココア、インスタントコーヒまたは抹茶などであってもよい。

【符号の説明】

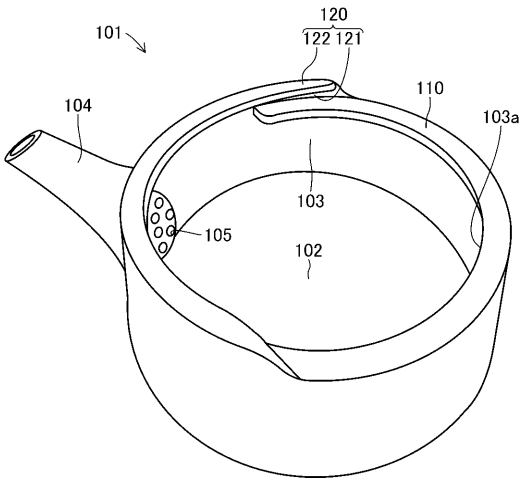
【００６２】

ＷＫ１…飲料原料、ＷＫ２…飲料溶媒、
１００…急須、１０１…急須本体、１０２…底部、１０３…側壁、１０３ａ…開口部、１０４…注ぎ部、１０５…濾し部、
１１０…蓋体支持部、
１２０…止め壁部、１２１…壁部、１２２…覆い部、
１３０…蓋体、１３１…周縁部、１３２…把持部、１３３…指当て部、１３４…摺動部、
１３５…逃げ部。

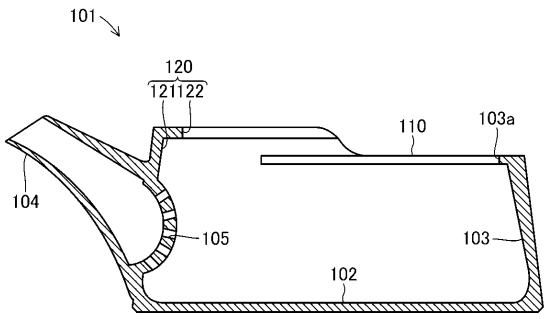
【図１】



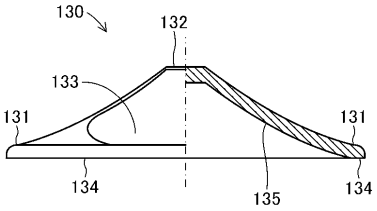
【図２】



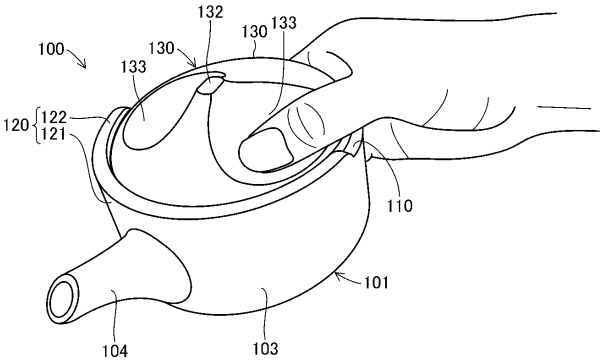
【図３】



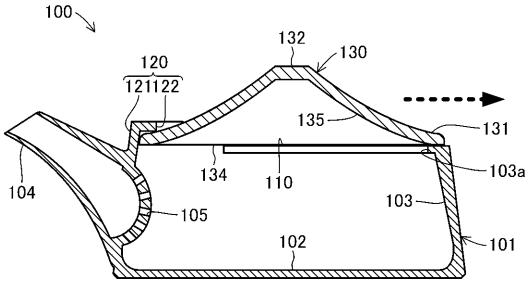
【図４】



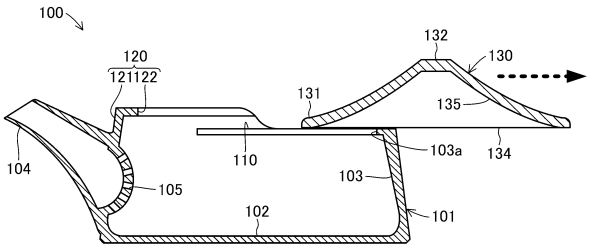
【図５】



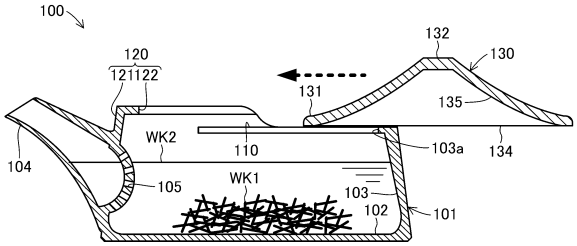
【図６】



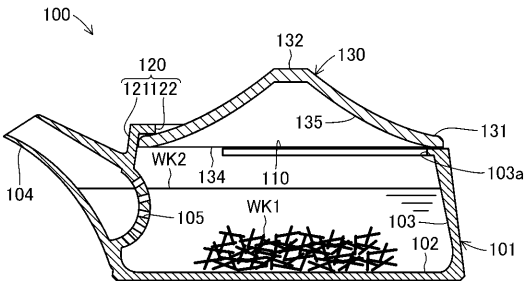
【図７】



【図８】



【図９】



フロントページの続き

(56)参考文献 実開昭５２－６８８８７（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５９－３１９７６（ＪＰ，Ｕ）
登録実用新案第３１２１１６９（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
A47G 19/14